

令和 6年 5月14日

理事長 殿

## 2023年度 特定課題研究費研究報告書

研究代表者	所属	一般科目	職	助教	氏名	福田浩之
研究分担者	所属		職		氏名	
	所属		職		氏名	
	所属		職		氏名	
研究課題名	(和文) 近代の俳句における「見る」こと——戦後を中心に (英文) Visuality of Modern Haiku: Focusing on Postwar					
研究種目	スタートアップ研究					
研究実績の概要						
<p>本研究においては、戦後の俳句における実践的および理論的な展開を、正岡子規らによる「写生」の提唱から戦前・戦中期の新興俳句運動に至る流れの先にあらためて位置づけるため、戦後の前衛俳句のさまざまな動きのなかで、とりわけ赤尾兜子の句と俳論を中心的な対象として定めた。</p> <p>兜子は第三イメージ論の提唱者として俳句史に名を残しているが、本人が生前にその理論を著書としてまとめなかったことも一因となり、この第三イメージ論についての言説は長らく混乱を来していた。本研究では、商業誌から同人誌まで、発表された兜子の著述を幅広く精査し、第三イメージ論をその成り立ちから辿りなおした。これにより、従来の言説にみられた事実誤認を正しながら、兜子の第三イメージ論が、成立の当初から一貫して、視覚的な枠組みを超えたイメージを志向するものだったことを示すことができた。さらに、本研究では、こうしてより明確になった兜子の第三イメージ論を、旧来の取り合わせ論や、兜子と同時代に金子兜太が提唱した造型論と比較した。これにより、第三イメージ論が近現代の俳論史に占める独自の位置とその意義を示すこともできた。</p> <p>本研究では、兜子による第三イメージ論の提唱と創作におけるその実践を俳句における視覚的なイメージの乗り越えの試みとして分析した。その成果は、俳句において長らく創作の実践と結び付けられてきた「見る」ことのありようを批判的に問うことにもつながる。なお、本研究の成果は、下記の通り、本学の研究紀要に論文として発表した。</p>						
研究発表（論文、著書、講演等）						
福田浩之「第三イメージ論再考——赤尾兜子の俳句と俳論」、『東京都立産業技術高等専門学校研究紀要』第18号、2024年3月、41-27頁。 小倉真理子、上野正史、福田浩之、安里恒佑『現古漢融合評論・詩歌問題集』、明治書院、2024年2月。						
その他（教育活動・OPCへの貢献、特許等）						
8月12日と13日の2日にわたり、OPC主催講座「中学生のための小論文講座」の講師を担当した。						